

## 近代教科書の内容分析—生命尊重を中心に (V)

—戦後小学校国語教科書について—

福田 啓子\*・橋口 英俊\*・寺沢 千高\*\*

(昭和60年9月30日受理)

### The Analysis of Contents of Modern Japanese (V) Textbooks—Centering on Human-Esteem —The Japanese Textbooks after the World War II— Keiko FUKUDA, Hidetoshi HASHIGUCHI and Chitaka TERASAWA

(Received September 30, 1985)

#### I はじめに

これまでに、われわれは戦前、戦後の小学校教科書をとりあげ、各教科ごとに主として人間尊重や生命尊重という観点、すなわち、人間の尊厳という信念に基づいて自他の人格や生命を尊重するという人間尊重の精神から内容分析を行ってきた<sup>1)~8)</sup>。本報告は、その一環をなすものであり、戦前の国定教科書にひき続き、情緒や心理面の発達に重要な役割を果たすと思われる国語教科書をとりあげ分析する。

国語は、読む、書く、聞く、話すといったことを基礎とし、日常生活において最も身近であり、その教育によって人間形成をめざす教科であるといえる。それだけに各時代社会の求める人間像を教科書の中で何らかの形で訴えようとしたならば、その影響は、他教科に比べ、ことのほか大きいように思われる。

従って、ここでは戦後の昭和22年から現在までの国語教科書の内容が、各時代においてどのように変化してきたかを検討し、生命尊重や人間尊重の問題と国語教育について考えていくことを目的とする。

#### II 方 法

1. 分析に使用した国語検定教科書は、学習指導要領の改訂ごとに発行されたA社<sup>註1)</sup>、B社<sup>註2)</sup>、C社<sup>註3)</sup>の1年生から6年生まで計185冊である。これら3社を対象としたのは、戦後検定制度が発足して以来、現在まで国語教科書を一貫して出版している会社だという理由からである。ただし、I期(昭和22~26年)は、国定VI期教科書を使用した<sup>9)</sup>。

\* 児童学科

\*\* 練馬区立桜小学校

2. 各期の区分は、学習指導要領の改訂に準じ、I期(昭和22~26年)、II期(昭和27~32年)、III期(昭和33~42年)、IV期(昭和43~51年)、V期(昭和52年~現在)とする。

3. 分析は、各期各学年ごとに以下のような作業を行なう。

(1) ジャンルについては、まず国語教科書を全体的にとらえる意味で、学習指導要領などを参考に、各単元を次の12に分類する。

1・生活文(学校生活や家庭生活、遊び、スポーツ)、2・詩(短歌、俳句)、3・報告文(説明、記録、観察)、4・物語(童話、昔話、小説)、5・伝記(個人の一生、研究内容、発明、発見)、6・作文(手紙、日記、文の書き方)、7・劇(紙しばい、よびかけ、学芸会)、8・ことば(ことば遊び、ことわざ、慣用句)、9・話し合い(会議、研究発表)、10・練習(手引き、問題)、11・文字(漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字)、12・その他(目次、巻末、単元の目標)。

(2) 生命尊重や人間尊重に関する内容については、人々が幸福に生きるために不可欠な精神ということを主に表1のカテゴリーを設定し分類する。

(3) また、生命尊重や人間尊重の価値的内容をみていくうえで、これらを妨げる可能性があると思われる内容については、表2のカテゴリーを設定し分類する。

(4) 具体的には、各期の教科書について単元ごとに頁数を出し、その中に上記のカテゴリーがどの程度含まれているかを頁数単位で算出する。

表1 生命尊重に関する内容

名称	内容
A(健康や安全)	生命を守り尊重する, 健康の保持や体力の向上, 危険防止, 衛生や安全.
B(感謝)	他人の好意や自然の恩恵をありがたく思う, 先人の業績などに感謝する.
C(親切)	困った目にあっている人に何か援助したりやさしく対応する.
D(尊敬)	相手の人格を認め, 存在を高く評価する. 相手のとった態度や行動を高く評価する.
E(協力)	力をあわせて物事にあたる. 自己中心でなく, みんなと共に目標に向かって行動する.
F(素直)	自分の非を認め反省する. 悪いことをしたら謝罪する. ひねくれずに明るく生きる.
G(大切)	物を乱暴に扱わずにいねいに使用する. 大事に保管する.
H(保護)	自然を守る. 動物や植物をかわいがり, 世話をする.
I(家族愛)	親, 兄弟, 祖父母, 夫婦などの暖い心の交流やいたわりあい.
J(友情)	クラスの人たちと仲よくする. 友人として思いやりと真心をもって接する.
K(師愛)	先生が子どもたちを見守り, 教育する. 弟子たちが師を尊敬する.
L(博愛)	社会のためにつくす. 広い心ですべての人を愛していく.
M(教訓)	規則や約束を守る. 任務を遂行する. 正義感, 正直, 道徳的な内容.
N(希望)	喜びや望み. 生きることへの原動力となることばや写真
O(努力)	目標にむかってがんばる. 物事に対して真剣にとりくむ.
P(平和)	戦争のない世界, 心配ごとやもめごとのない状態. 幸福感.
Q(愛国心)	国や郷土の発展を願い, 個有のものを守る. 国や郷土を慕う.
R(あいさつ)	人間関係を円滑にするようなことば, 会話.
S(仲よく)	一緒に遊んだりけんかをしないようにする.
T(平等)	不合理な差別の否定.

表2 生命尊重を妨げる内容

名称	内容
a(生命軽視)	生命の尊さを無視する. 自己犠牲, 自殺, 人殺し.
b(差別)	人権無視, 弱い立場にいる者を服従させる. 仲間はずれ.
c(自己中心)	他人への思いやりがなく, 自分勝手な行動.
d(欺瞞)	うそをつく. 人を落とし入れるような行動.
e(報復)	自分がなにかされたら相手にも同じことをする.
f(暴力や戦争)	相手に乱暴する. 戦争や争いごとを美化する. 肯定する.
g(動物虐待)	動物をいじめたり殺す. 植物をむやみやたらに摘みとる.

12年), 家族主義的内容の濃い儒教主義復活時代(明治13~18年), そして, 忠君愛国を基調とする検定教科書時代(明治19~36年)を経て, 明治37年には国定教科書時代へとその内容を変えてきた. 国定教科書は, 昭和22年までに5回の改訂が行なわれ, それらの詳細については概に報告してきた<sup>10)</sup>. そこでも, IV期(昭和8~15年)を境にいくらかの変容を迫られ, 特にV期(昭和16~21年)では, その内容に大きな変化がみられる. すなわち, この時期は第二次世界大戦の突入期であり, 理科や修身と同様, 戦争に勝ち抜くための国民の協力を心理的に訴える内容が多くみられる. そして, 戦後のVI期(昭和22~26年)になると, 教科書の内容も軍国主義や国家主義的なものから一変して, 民主社会の形成を目的としたものになる. これらは, 昭和22年, わが国で初めて出された学習指導要領においても一層強化されることになる. なお, 新検定教科書時代になると, 昭和24年に「国語の本(二葉)」「太郎花子の国語の本(日本書籍)」などが発行されるが, 文部省は, その趣旨徹底のため, 昭和25年まで文部省著作教科書(1学年用)を発行している<sup>11, 12, 13)</sup>.

## 2. 検定教科書の出版社と種類

昭和22年に学習指導要領が出されて以来, 現在までに4回の改訂が行なわれている. 図1は, その間出版された検定教科書会社を示したものであり, 図2は, 検定教科書の種類を示したものである. まず, 出版会社は, 昭和24年に3社, 26年に6社, 28年では9社と次第に増え32年から35年の間は11社と最高になり, 以後36年に10社, 38年に9社, 40年に8社と減少し, 43年には7社となり

## III 結果および考察

ここでは, 先に述べた主旨に基づき, 戦後の国語教科書について分析した結果を中心に考察する.

### 1. 検定教科書に至るまでの概観

学制公布以降, わが国の国語教育は, 人間や自然を中心とした啓蒙的活活をもった翻訳教科書時代(明治5~

現在に至っている。これを教科書の種類でみると、24年には3種類であったのが、序々に増加し、34年には22種類となる。しかし、36年には突然半分の11種類に減り43年では8種類となる。

このように、昭和30年代の後半から出版社や教科書の種類も減少しているが、その背景には検定制度のきびしさ、大手出版社への吸収、また、教師や子どもの側からみると、選択の自由度の狭まりなど、時代の波とともにさまざまな要因が想定される。ちなみに、大手出版社上位2位の教科書市場占有率は、それぞれ57.3%、18.5%

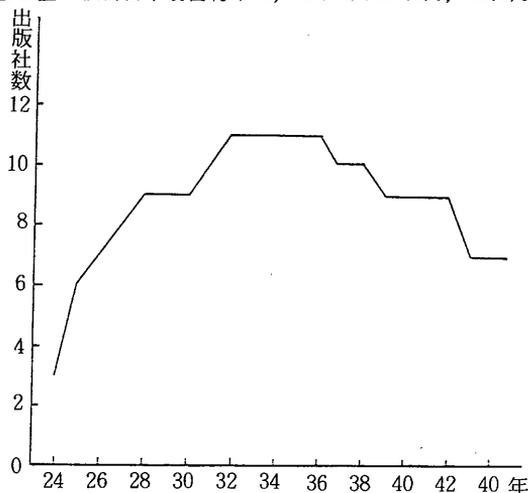


図1 国語教科書出版社数

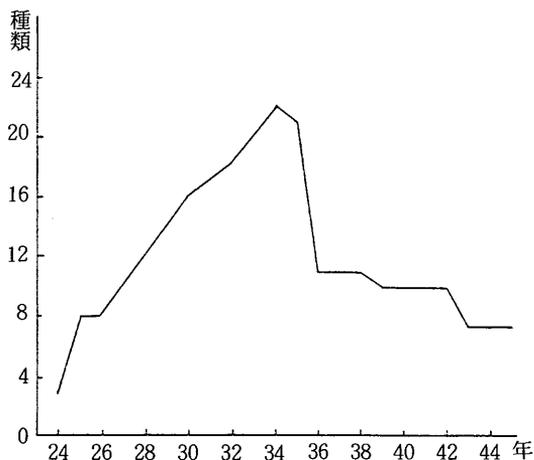


図2 国語教科書種類数

と両社で75.8%を占めている<sup>14)</sup>。

### 3. 全体的特徴

表3<sup>15)~19)</sup>は、各期ごとの学習指導要領の総括目標を

掲げたものであり、図3は、生命尊重および生命尊重を妨げるような内容の各期ごとの変化を示したものである。また表4はジャンル、表5は生命尊重に関する内容の、それぞれのカテゴリーがどの程度であるかを、各期別各出版社別に示したものである。これらの表や図を参考に以下全体的な特徴を概観してみる。

まず、表3を一瞥して気づくことは、I期(昭和22~26年)では、社会生活における積極的な適応手段として位置づけられていたのに対し、II期(昭和27~32年)以降は、基礎的な技術や能力そのものに重点がおかれ、特に、IV(昭和43~51年)、V期(昭和52年~現在)ではそれらがさらに抽象化され、簡略化されていることである。

表3 学習指導要領総括目標一覧

I期	
1.	表現意欲を盛んにし、かっばつな言語活動をする事によって社会生活を円滑にしようとする要求と能力を発達させること。
2.	自分を社会に適應させ、個性を伸ばし、また他人を動かす手段として効果的に話したり書いたりしようとする要求と能力とを発達させること。
3.	知識を求めため、豊かな文学を味わうためというようないろんな場合に應ずる読書のしかたを身につけようとする要求と能力とを発達させること。
4.	正しく美しいことばを用いることによって社会生活を向上させようとする要求と能力とを発達させること。
II期	
1.	自分に必要な知識を求めたり、情報を得ていくために他人の話に耳を傾ける習慣と態度を養い技能と能力をみがく。
2.	自分の意志を伝えて、他人を動かすために、生き生きとした話しをしようとする習慣と態度を養い技能と能力をみがく。
3.	知識を求めたり、情報を得たりするために娯楽と鑑賞のために広く読書しようとする習慣と態度を養い技能と能力をみがく。
III期	
1.	日常生活に必要な国語と能力を養い、思考力を伸ばし、心情を豊かにして、言語生活の向上を図る。
2.	経験を広め知識や情報を求め、また楽しみを得るために、正しく話を聞き、文章を読む態度や技能を養う。
3.	経験したこと、感じたこと、考えたことをまとめ、また人に伝えるために、正しくわかりやすく話し、文章に書く態度や技能を養う。
4.	聞き、話し、読み、書く能力をいっそう確実にするために国語に対する関心や自覚をもつようになる。
IV期	
生活に必要な国語を正確に理解し、表現する能力を養い、国語を尊重する態度を育てる。	
V期	
国語を正確に理解し、表現する能力を養うとともに国語に対する関心を深め、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を養う。	

次に、それらを具体的な教科書でみる。表4のジャンルでは、1(生活文)のⅣ期、Ⅴ期の急激な減少が目立つ。Ⅱ期、Ⅲ期と比較的高い値を保っていたのが、Ⅳ期で突然半分以下の9.8%、と減少し、Ⅴ期ではわずか6.4%を残すだけとなる。4(物語)は、Ⅱ期にやや減少するものの、Ⅲ期から再び増加し、Ⅴ期では最高の34.0%を占め、1とは、ほぼ逆の変化をみせている。2(詩)はⅢ期まで減少するが、Ⅳ期、Ⅴ期と増加している。すなわち、これらの変化は、子どもの興味をひきつけるような学習方法への過程ともみることができよう。また、6(作文)、11(文字)は、各期ごとに増加しているのに対し、7(劇)は減少している。8(ことば)のⅣ期、Ⅴ期の増加とあわせ考えると、より実践的、実用的な国語力の育成が重視されてきたといえるであろう。その他、3(報告文)は、Ⅳ期で最も多く、5(伝記)は、Ⅱ期からⅢ期にかけての減少が激しい。さらに、10(練習)は、Ⅲ期まで増加し、その後Ⅳ期、Ⅴ期と減少するなど、

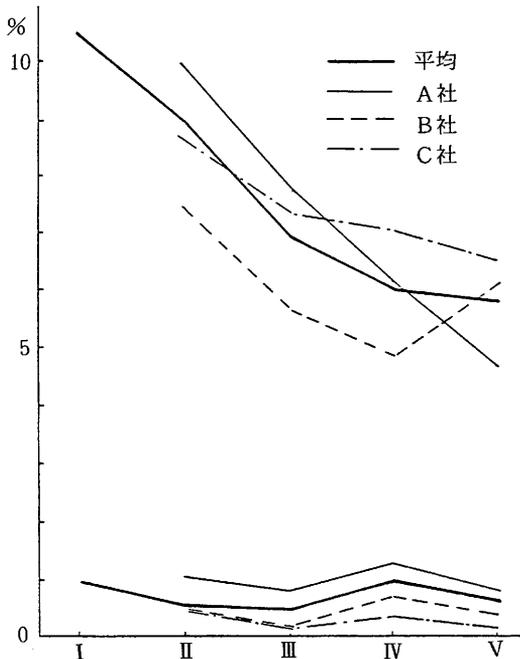


図3 生命尊重および生命尊重を妨げる内容の変化  
それぞれに微妙な変化がみられる。

生命尊重に関する内容では、全期を通じてその記述もそれほど多くはないが、Ⅰ期(10.4%)を最高に、Ⅱ期(8.9%)、Ⅲ期(6.9%)、Ⅳ期(6.0%)、Ⅴ期(5.7%)と減少しているのが特徴である(図3)。表5のカテゴリ

別別にみると、各期とも比較的高い値を保っているのがⅠ(家族愛)であり、次にⅢ(親切)、Ⅳ(保護)、Ⅴ(健康や安全)、Ⅵ(仲よく)と続く。Ⅶ(感謝)やⅧ(挨拶)はⅣ期まで安定していたもののⅤ期で減少し、逆にⅨ(平和)、Ⅹ(愛国心)は増加する。さらに、値は低いが、Ⅺ(尊敬)、Ⅻ(協力)、Ⅼ(師弟愛)、Ⅽ(博愛)、Ⅾ(努力)などもⅣ期で減少するものの、ⅰ、ⅱ、ⅲと同様Ⅴ期で再び増加しているのは興味深い結果である。

生命尊重を妨げるような内容についても、その記述は少なく、各期とも全体の1%未満にすぎない。しかし、Ⅰ期以降減少し、Ⅳ期でやや増加、Ⅴ期に再び減少というわずかながらも微妙な変化をみせている(図3)。カテゴリ別では、a(生命軽視)、b(差別)、はⅣ期に、c(自己中心)、d(欺瞞)は、Ⅲ期にやや多くみられるのが特徴である。

以上の傾向は、今回分析対象とした各出版社にはほぼ共通した特徴であり、学習指導要領の各期ごとの内容とかなり一致していることがわかる。しかし、各出版社を比べてみると、実に微妙なところに差がみられるのも事実である。例えば、ジャンルでは、先にⅡ期以降増加傾向にあると指摘した6(作文)は、傾向に変わりはないがB社の場合、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期において、その記述量はA、C社の半分以下である。生命尊重に関する内容においても同様、多少の差が現われる。

そして、全体的にみて特徴的なのは、概してⅣ期までとⅤ期では、前者において各出版社の差異が顕著であったが、後者ではかなり縮小されている。すなわち、先に述べた最近の検定制度のきびしさ、大手出版会社への吸収などが考えられるが、各社の個性がなくなってきたことを示唆しているものと思われる。

#### 4. 各期ごとの特徴

以上の結果は、それぞれわが国の時代背景と密接な関係があると思われるが、そのへんの詳細を各期ごとにみていく。

(1) Ⅰ期(昭和22~26年) ; この時期は、国定Ⅳ期にあたり、昭和22年わが国で初めて出された学習指導要領の「社会生活を円滑に」「社会に適応させ」「社会生活の向上」などが示すように、戦後の新しい時代の人間形成を目的としている(表3)。教科書(国定Ⅵ期)では、ジャンル4(物語)、1(生活文)が多く、7(劇)、3(報告文)と続く。2(詩)は、値は低いが全期中1位となっている。すなわち、文学や詩などを味わうことも

表4 各期別出版社別ジャンル変化

( )は%

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
		生活文	詩	報告	物語	伝記	作文	劇	ことば	話し合い	練習	文字	その他	
I	国定	371.3 (23.2)	116.2 (7.3)	197.3 (12.3)	456.6 (28.5)	53.2 (3.3)	51.3 (3.2)	201.9 (12.6)	89.3 (5.6)	16.0 (1.0)	0	19.0 (1.2)	39.0 (2.4)	1,601
	A社	384.1 (26.1)	101.3 (6.9)	141.6 (9.6)	241.7 (16.4)	125.5 (8.5)	87.4 (5.9)	47.3 (3.2)	126.9 (8.6)	75.3 (5.1)	58.8 (4.0)	57.7 (3.9)	71.0 (4.8)	1,472
II	B社	462.0 (30.7)	81.0 (5.4)	150.5 (10.0)	249.5 (16.6)	169.5 (11.3)	3.5 (0.2)	151.5 (10.1)	75.0 (5.0)	23.0 (1.5)	39.0 (2.6)	47.5 (3.2)	40.0 (2.7)	1,503
	C社	455.1 (30.3)	45.3 (3.0)	206.7 (13.8)	326.7 (21.8)	39.6 (2.6)	73.5 (4.9)	47.1 (3.1)	64.0 (4.3)	6.0 (0.4)	123.3 (8.2)	45.0 (3.0)	63.1 (4.2)	1,500
	合計	1301.2 (29.1)	227.6 (5.1)	498.8 (11.1)	817.9 (18.3)	301.6 (6.7)	164.4 (3.7)	245.9 (5.5)	265.9 (5.9)	104.3 (2.3)	221.1 (4.9)	150.2 (3.4)	174.1 (3.9)	4,475
III	A社	370.2 (23.7)	33.1 (2.1)	88.0 (5.1)	301.1 (19.3)	43.5 (2.8)	154.0 (9.8)	74.0 (4.7)	93.5 (6.0)	46.5 (3.0)	171.7 (11.0)	119.5 (7.6)	59.0 (3.8)	1,564
	B社	484.5 (30.8)	47.5 (3.0)	144.5 (9.2)	329.0 (20.9)	54.0 (3.4)	25.5 (1.6)	42.0 (2.7)	40.0 (2.5)	73.0 (4.6)	126.0 (8.0)	123.0 (7.8)	84.0 (5.3)	1,573
	C社	234.2 (14.6)	43.0 (2.7)	187.6 (11.7)	260.6 (16.3)	82.7 (5.2)	158.9 (9.9)	69.4 (4.3)	136.0 (8.5)	45.9 (2.9)	182.0 (11.4)	156.9 (9.8)	43.0 (2.7)	1,600
	合計	1088.9 (23.0)	123.6 (2.6)	420.1 (8.9)	890.7 (18.8)	180.2 (3.8)	338.4 (7.1)	185.4 (3.9)	269.5 (5.7)	165.4 (3.5)	479.7 (10.1)	399.4 (8.4)	186.0 (3.9)	4,737
IV	A社	185.2 (11.6)	56.6 (3.5)	219.8 (29.5)	472.0 (29.5)	44.9 (2.8)	142.7 (8.9)	16.0 (1.0)	102.8 (6.4)	99.2 (6.2)	111.7 (7.0)	141.6 (8.9)	33.0 (2.1)	1,598
	B社	208.0 (13.3)	70.0 (4.4)	279.0 (17.4)	441.0 (27.5)	67.0 (4.2)	56.6 (3.5)	14.0 (0.9)	88.0 (5.5)	56.0 (3.5)	126.0 (7.9)	150.0 (9.4)	43.0 (2.7)	1,604
	C社	74.6 (4.6)	66.3 (4.1)	192.2 (11.8)	409.0 (25.1)	80.7 (4.9)	195.0 (12.0)	0	185.4 (11.4)	99.6 (6.1)	137.8 (8.4)	140.9 (8.6)	41.4 (2.5)	1,631
	合計	467.8 (9.8)	192.9 (4.0)	691.0 (14.3)	132.2 (27.4)	192.6 (4.0)	394.3 (8.2)	30.0 (0.6)	376.2 (7.8)	254.8 (5.3)	375.5 (7.8)	432.9 (15.2)	117.4 (2.4)	4,833
V	A社	150.5 (10.0)	78.0 (5.2)	148.0 (9.8)	442.5 (29.4)	18.0 (1.2)	147.1 (9.8)	0	153.7 (10.2)	4.1 (0.3)	72.1 (4.8)	181.1 (12.4)	88.0 (5.9)	1,504
	B社	121.0 (8.7)	61.5 (4.2)	160.5 (11.0)	510.0 (34.8)	39.0 (2.7)	122.0 (8.3)	14.5 (1.0)	105.5 (7.2)	21.0 (1.4)	72.0 (4.9)	196.5 (13.4)	40.5 (2.8)	1,464
	C社	16.1 (1.2)	54.2 (3.6)	162.7 (10.8)	570.5 (37.8)	21.9 (1.2)	157.3 (10.4)	0	39.5 (15.9)	0	84.3 (5.6)	182.2 (12.1)	30.0 (2.0)	1,510
	合計	287.6 (6.4)	193.7 (4.3)	471.2 (10.5)	1523.0 (34.0)	78.9 (1.8)	426.4 (9.5)	14.5 (0.3)	498.7 (11.1)	25.1 (0.6)	228.4 (5.1)	559.8 (12.5)	158.5 (3.5)	4,478

に、おはなしや劇、よびかけなど、子どもたちを中心に自ら経験することによって、新しい生活や世界に目を向けさせ、これまでと違った人間観を創り出そうとする意図がうかがわれる。しかし、まだ戦後の混乱期であり、1が高いことは、身近な学校生活や家庭生活を通して、生活の改善に力が入れられていたといえる。

生命尊重に関する内容は、全期中最も多くみられる。特に、カテゴリ-B(感謝)、C(親切)が高い値を占め、「おとうさんは、うしろのおきゃくさんの荷物をもってあげました。わたしは、おばあさんの手をとってあ

げました(1年)」「ぼくのまえに、まつばづえをついたわかい人がいるんです。ぼくは、はっと思ってすぐ立ってその人をすわらせてあげました(3年)」「たったひとつのでんとうですが、この光を出すためにどれほどのたくさんの人がはたらいていることでしょうか(2年)」といった記述が示すように、人に思いやりをもって接することや他人へ感謝する気持ちを大事にするといったことが重視されていたようである。A(健康や安全)も比較的多く「からだはいつもきれいにしましょう(2年)」「じゅくさないものはたべないようにすること。夜は、

表5 各期別出版社別内容の変化

( )は%

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	合 計
	健康安全	感 謝	親 切	尊 敬	協 力	素 直	大 切	保 護	家族愛	友 情	師弟愛	博 愛	教 訓	希 望	努 力	平 和	愛 国 心	扶 援	仲よく	平 等	
I	12.1 (7.2)	8.7 (5.2)	25.0 (15.0)	2.1 (1.3)	0.5 (0.3)	2.4 (1.4)	0.8 (0.5)	11.0 (6.6)	34.5 (20.6)	1.8 (1.1)	8.9 (5.3)	0.8 (0.5)	6.3 (3.8)	17.8 (10.6)	8.8 (5.3)	8.9 (5.3)	7.4 (4.4)	2.8 (1.7)	5.9 (3.5)	0.7 (0.4)	167.2 (10.4)
A社	12.4 (8.7)	4.8 (3.4)	6.7 (4.7)	6.2 (4.3)	3.3 (2.3)	6.4 (4.5)	0.5 (0.3)	15.4 (10.8)	28.8 (20.1)	9.7 (6.8)	3.8 (2.7)	5.3 (3.7)	8.9 (6.2)	9.2 (6.4)	6.3 (4.4)	3.5 (2.4)	2.9 (2.0)	4.3 (3.0)	6.2 (4.3)	2.1 (1.5)	143.2 (9.7)
B社	5.8 (5.3)	4.0 (3.6)	8.6 (7.8)	3.3 (3.0)	6.4 (5.8)	0.7 (0.6)	0.2 (0.2)	6.2 (5.2)	26.9 (24.4)	2.3 (2.1)	1.7 (1.5)	1.6 (1.4)	1.4 (1.3)	6.6 (6.0)	5.4 (4.9)	2.4 (2.2)	2.2 (2.0)	5.6 (5.1)	17.7 (16.1)	1.1 (2.0)	110.1 (7.5)
C社	15.1 (10.7)	6.0 (4.2)	15.2 (10.7)	7.4 (5.2)	3.8 (2.7)	0.5 (0.3)	0.3 (0.2)	28.6 (20.2)	9.1 (6.4)	1.4 (1.0)	0.3 (0.2)	3.0 (2.2)	4.2 (2.9)	5.8 (4.0)	9.8 (6.9)	6.1 (4.3)	1.1 (0.8)	9.2 (6.5)	13.1 (9.3)	1.8 (1.3)	141.5 (8.8)
合 計	33.3 (8.4)	14.8 (3.7)	30.5 (7.7)	16.9 (4.2)	13.5 (3.4)	7.6 (1.9)	1.0 (0.3)	50.2 (12.6)	64.8 (16.3)	13.4 (3.4)	5.8 (1.5)	9.9 (2.5)	14.5 (3.7)	21.6 (5.5)	21.5 (5.4)	12.0 (3.0)	16.1 (4.1)	19.1 (4.8)	37.0 (9.4)	5.0 (1.3)	394.8 (8.9)
III	4.2 (3.4)	6.1 (5.0)	18.4 (15.1)	1.1 (9.0)	5.3 (4.3)	6.5 (5.3)	0.5 (0.4)	4.2 (3.4)	34.5 (28.1)	6.2 (5.1)	5.9 (4.8)	3.6 (2.9)	1.6 (1.3)	6.4 (5.2)	5.4 (4.4)	0.5 (0.4)	0.3 (0.2)	6.3 (5.1)	4.0 (3.3)	0.8 (0.6)	122.4 (7.8)
B社	5.7 (6.5)	2.4 (2.7)	9.3 (10.6)	1.3 (1.5)	6.5 (7.4)	3.8 (4.3)	0.2 (0.2)	9.3 (10.6)	10.6 (12.1)	2.0 (2.3)	4.0 (4.6)	1.0 (1.1)	0.4 (0.5)	3.4 (3.9)	2.8 (3.2)	1.4 (1.6)	0.9 (1.0)	5.7 (6.5)	10.4 (11.9)	0.6 (0.7)	87.4 (5.6)
C社	20.8 (18.1)	4.8 (4.2)	22.5 (19.6)	5.7 (5.0)	0.8 (0.7)	0.8 (0.7)	0.6 (0.5)	11.5 (10.0)	15.1 (13.1)	0.8 (0.7)	2.0 (1.7)	2.1 (1.8)	0.8 (0.7)	0	7.7 (6.7)	1.8 (1.6)	2.4 (2.1)	3.4 (3.0)	1.9 (1.7)	0.8 (0.7)	114.7 (7.3)
合 計	30.7 (9.4)	13.3 (4.1)	30.2 (15.5)	8.1 (2.5)	12.6 (3.9)	9.9 (3.1)	1.3 (0.4)	25.0 (7.7)	60.2 (18.6)	9.0 (2.8)	11.9 (3.7)	6.7 (2.1)	2.8 (0.9)	9.8 (3.0)	15.9 (5.0)	3.7 (1.1)	3.6 (1.1)	15.4 (4.7)	16.3 (5.0)	2.2 (0.7)	324.5 (6.9)
IV	12.5 (12.8)	5.9 (6.0)	6.4 (6.5)	1.3 (1.3)	1.7 (1.7)	1.8 (1.8)	3.5 (3.6)	9.0 (9.2)	18.7 (19.1)	2.9 (3.0)	7.0 (7.2)	1.7 (1.7)	1.8 (1.8)	5.7 (5.8)	2.9 (3.0)	0	2.0 (1.0)	7.3 (7.5)	5.2 (5.3)	0.6 (0.6)	97.9 (6.1)
B社	8.1 (10.2)	1.9 (2.4)	7.4 (9.4)	0.3 (0.4)	1.4 (1.8)	1.8 (2.3)	0.3 (0.4)	8.5 (10.4)	26.1 (33.0)	3.0 (3.8)	0.5 (0.6)	1.1 (1.4)	0.3 (0.4)	3.4 (4.3)	1.5 (1.9)	0.6 (0.7)	1.0 (1.3)	2.4 (3.0)	6.7 (8.5)	1.1 (1.4)	79.1 (4.9)
C社	9.7 (8.6)	5.2 (4.6)	28.8 (25.6)	9.7 (8.6)	1.6 (1.4)	0.3 (0.2)	0.9 (0.8)	2.5 (2.2)	15.9 (14.1)	2.1 (1.9)	2.3 (2.0)	1.8 (1.6)	1.8 (1.6)	0.5 (0.4)	13.5 (12.0)	5.6 (4.9)	1.8 (1.6)	0.2 (0.2)	4.6 (4.1)	0	112.4 (7.0)
合 計	30.7 (10.6)	13.0 (4.5)	42.6 (14.7)	11.3 (3.9)	4.7 (1.6)	3.9 (1.3)	4.7 (1.6)	20.0 (6.9)	60.7 (20.9)	8.0 (2.8)	9.8 (3.4)	4.6 (1.6)	3.9 (1.3)	9.6 (3.3)	17.9 (6.2)	6.2 (2.1)	4.8 (1.7)	9.9 (3.4)	16.5 (5.7)	1.7 (0.9)	289.4 (6.0)
V	6.6 (9.7)	0.2 (0.3)	3.5 (5.1)	1.0 (1.4)	2.8 (4.1)	0.9 (1.3)	0	5.9 (8.6)	24.3 (35.2)	1.8 (2.6)	5.2 (7.5)	0	0.6 (0.9)	0.7 (1.0)	3.3 (4.8)	4.2 (6.1)	2.7 (3.9)	1.5 (2.1)	3.5 (5.1)	0.3 (0.4)	69.0 (4.6)
B社	5.5 (6.2)	1.3 (1.5)	7.8 (8.8)	1.0 (1.1)	11.3 (12.7)	0.1 (0.1)	0.4 (0.5)	9.5 (10.7)	19.7 (22.2)	5.0 (5.6)	0.8 (0.9)	5.6 (6.3)	0.3 (0.3)	6.1 (6.9)	1.6 (1.8)	2.4 (2.7)	0.3 (0.3)	1.3 (1.5)	8.6 (9.7)	0.1 (0.1)	88.7 (6.1)
C社	3.9 (4.0)	4.9 (5.0)	25.1 (25.8)	2.8 (2.9)	4.5 (4.6)	1.2 (1.2)	0.3 (0.3)	13.1 (13.5)	13.0 (13.4)	2.8 (2.9)	0.1 (0.1)	5.8 (6.0)	2.1 (2.1)	0	2.7 (2.8)	5.5 (5.7)	0.1 (0.1)	2.3 (2.4)	7.3 (7.5)	0	97.2 (6.5)
合 計	16.0 (6.3)	6.4 (2.5)	35.4 (14.3)	4.8 (1.9)	18.6 (7.3)	2.2 (0.9)	0.7 (0.3)	28.5 (11.2)	57.0 (22.4)	9.6 (3.8)	6.1 (2.4)	11.4 (4.5)	3.0 (1.2)	6.8 (2.7)	7.6 (3.0)	12.1 (4.8)	3.1 (1.1)	5.1 (2.0)	19.4 (7.6)	0.4 (0.2)	254.9 (5.7)

はらまきをきちんとしてねびえをふせぐこと(3年)」「もしけががでもしたらたいへんですからね(5年)」といったような身体のことや衛生、危険防止についての記述が多くみられる。また、N(希望)、P(平和)、O(努力)、Q(愛国心)が、全期中最高であり、「民主主義ということばをほんとうに生かしていくよりほかに道はありません。こうして、みんなの歩調がそろったときに、はじめて日本が美しい国となることができましょう(5年)」「日本の朝、私たちの朝だ。新しい世界のおとずれ、わかわかしい世紀のひびき。平和と自由の光がさしてくる。平和と自由。友よ、友よ。この美しい朝をむかえよう。この光を全身にあびよう(6年)」「ああ日本、まさに立つべし、きみたちのそのやわらかきたなごころもて(6年)」など戦後の混乱期から一刻も早く脱皮するために、平和のありがたさや望み、将来への期待を教科書の中で訴えようとしていたことがわかる。

しかし、「自分の命はつばめさんにあげよう。こう決心がつくと、くもはすっかりらかな気持ちになりました(4年)」「これはこまった。だんな様が帰ったらどんな目にあうかわからない。太郎かじゃの方は、気が強いばかりでなく、わるじえがあったから…(5年)」「西へ西へと航海して陸地にであったのがそれほどの手がらだらうかといつてあざわらいました(5年)」「うさぎたちは、なんてひとがいいんだらう。ぼくは、きつねになんか追われてやしないんだ。このトンネルがほしかったんだ(3年)など、自己犠牲や他人の人格を無視したりする記述が、比較的多くみられることも見落せない。

(2) II期(昭和27~32年)；この時期の特徴は、ジャンル10(練習)の出現であり、具体的には、教科書の各単元において「練習問題」や「考えるべき事項」が付記されていることである。また、2(詩)、4(物語)、7(劇)は減少し、9(話し合い)、11(文字)は増加している。すなわち、6(作文)の増加、学習指導要領の目標で「技能と能力をみがく」ことが強調されていることとあわせ、「話すこと」「書くこと」といった、より日常的に即した技術面が重視されだしたといえるだろう。

内容では、D(尊敬)、J(友情)、S(仲よく)、T(平等)、L(博愛)の増加が目立つ。「おたがい人間どうしだ。からだの大きさがちがっていても、ことばがどんなにちがっていても、どちらも人間(a社3年)」「一個のパンを分けあう。分けあってたべるふたりの心(a社6年)」「人はだれでも生まれながらにして、人と

しての尊さをもっている(同)」「どんなに少しでもためになり、人類の平和に役立つ仕事をする(同)」「世の中が便利になったからといってなまけてはいけません(b社4年)」といった記述は、この時期、民主主義への願いが一層強まり、人間関係にも関心がもたれたことを示唆している。

しかし、一方で、C(親切)、K(師弟愛)などの減少し、暴力や戦争に関する記述「島の士人は、かれの説得に応じなかったので、ついにこれと戦いを交えることになった。毒矢はスペイン人をばたりばたりとたおしていった。そして、マジェランもとうとう毒矢にあたってむざんな最後をとげてしまった(a社5年)」「ノースクリップは、ロイドジョージとならんで英国を戦勝国とした恩人とまでいわれています(c社5年)」や「キツネがいたら、このバットでばかりとやっつける。それをこのつなでいけどりにしてやる(a社4年)」などの動物虐待の記述もあげられる。

(3) III期(昭和33~42年)；昭和30年代になると、わが国の経済も一応安定し、社会全体が豊かになり、世界へと目が向けられていく。そのため、世界の技術や知識に対応できる人間の育成ということが目的とされ、想像力や思考力といった能力が重視されるようになった。ジャンルでは、6(作文)、10(練習)、11(文字)の増加が目立ち、特に、手紙や作文の書き方においては、「自分の経験を文章化する」「みんなの前で思っていることを話す」「人の話を聞く」といった内容が多くみられる。さらに、11の増加に伴い、漢字の量も多くなるが、ただ羅列するだけではなく、筆順や送りかななどを加え、説明がよりていねいになっていることも、その反映とみられる。

生命尊重に関する内容は、やや少なくなり、カテゴリーD(尊敬)、S(仲よく)、T(平等)、M(教訓)などが減少している。これは、この時期道徳が新しい教科として設置された影響ともいえるだろう。ちなみに、道徳的内容については、戦後、戦前の修身に代わって社会科を中心に全教科を通して、その教育を図るよう指示されてきたが、II期(昭和27~32年)後半から、現状の不十分さが反省され、徹底強化の必要性が高まっていたという背景がある。しかし、その中でカテゴリーC(親切)、F(素直)、K(師弟愛)が増加しているのは、興味深い結果といえる。具体的には「きのうのことごめんさい(a社3年)」「わたしも急にはずかしくなっ

ごめんなさいとあやまります(同)」「しんじくんあやまります(b社4年)」「道を教えてきておそくなったんだよ(a社2年)」「村人たちの親切な手当てのおかげでやっと正気にかえった(a社4年)」「ペスタロッチはかわいそうでたまらなかった。自分のがいとをぬいでアロイスのからだにかけてやった。…(先生)かれは泣きだした。声をあげて泣きながらペスタロッチのむねにだきついた(b社5年)」などがあげられる。すなわち、この時期は、技術面の向上とともに、おはなしや会話を通して、子どもたちが自分で考えて行動するといったことの動機づけを重視し、心理的に訴えようとしていたことがうかがわれる。

なお、「もし、もらえなくてももともとじゃないか。そのときには、みんなに幸福の伝説なんていいかげんなものだと言ってやればいいのさ。…うまくいったぞ。ふたりが帰ったら、すぐぼくたちもいこう(b社6年)」などの自分勝手な会話や自己中心的な記述もやや多くみられる。

(4) IV期(昭和43~51年)；この時期は、高度成長に伴い、世界へ追いつこうとする時代から、世界をリードする時代へと変わった。教育においても、科学や技術の発展を担うべき人間の育成を目的とするようになり、学習指導要領の具体的目標では「国語による理解と表現を通して知識を身につけ、心情を豊かにする。国語による伝達の役割を通して、社会生活を高める能力と態度を養う」<sup>20)</sup>と示されている。ジャンル3(報告)、6(作文)、11(文字)の増加、1(生活文)、7(劇)の急激な減少も、その反映とみることができる。また、4(物語)、5(伝記)は増加しているものの、全体的にみるとその内容は簡素になり、Ⅲ期に比べて子どもの心情に訴えるような記述は少なくなっている。なお、これらは、生命尊重に関する内容が少なくなっている理由のひとつといえる。例えば、c社の場合、伝記についてとりあげてみると、Ⅲ期では、個人の一生を通して友情や思いやりの内容が認められたが、IV期では、それらが削られ功績を称えるだけにとどまっている。表2のカテゴリー別にみると、C(親切)、D(尊敬)、E(協力)は減少し、A(健康や安全)、H(保護)が増えていることに気づく。具体的には「これ以上、魚をへらさないためにはどうしたらいいのか(a社4年)」「今日から各地で火災予防運動が始まります(同)」「交通まひは、さらにはげしくなり、それにとまなう公害の問題もいっそう深刻にな

るにちがいない。大都市の交通問題について、根本的に再検討する必要があるとつくづく考えさせられた(b社5年)」などの記述にみられるように、報道文や新聞記事、ニュースの中で自然や環境の保護、安全の問題がとりあげられているのが特徴といえる。

また、極端ではないが、生命軽視や差別に関する記述が、物語の中にわずかながらも認められる。具体的には「だまれ、王の命令じゃ、一すじのつきめでもあったら、おまえたちの命はない(a社3年)」「これはきつと仲間のしわざだ(同)」「どうにかして、公をおこらせずあのどうぞうにけちをつける方法はないか(a社4年)」「ゴナリルは、リーガンがいなければ万事自分の思いどおりになると思ひ毒をのませてしまう…。ええい無礼者。もう許さぬ。すぐ出ていけ。もし七日めになってもまだこの国におれば、その場でしぼり首だ(b社6年)」などである。

(5) V期(昭和52~現在)；前回(IV期)の教育があまりに知育偏重となり、情操面の低下が反省され、戦後4回目の学習指導要領の改訂が行なわれた。ここでは、「人間性豊かな児童生徒を育成すること<sup>21)</sup>」「ゆとりのあるしかも充実した学校生活を送れるようにすること<sup>22)</sup>」「国民として必要とされる基礎的、基本的な内容を重視するとともに、児童生徒の個性や能力に応じた教育が行なわれるようにすること<sup>23)</sup>」とされ、国語においても、文学教材が多く取り入れられているのが特徴である。ジャンル4(物語)が全期中最も多く、2(詩)の増加は、その反映といえる(表4)。しかし、10(練習)は減少しているものの(作文)、8(ことば)、11(文字)の急激な増加、さらに、7(劇)、9(話し合い)がわずか10%以下に減少していることは、依然として能力や技術面に重きがおかれていることをうかがわせる。

生命尊重に関する内容では、カテゴリーE(協力)がIV期から極端に増え、全期中最高となる。また、K(師弟愛)、O(努力)、P(平和)、Q(愛国心)なども増え、「人類の平和のために進んで平和の使いとして活動する(a社6年)」「関心のあるのは、常に日本人の現在ならびに将来の生活なのである。柳田さんほど、いつ、どんなときでも、日本人の幸福を考えていた人をぼくは知らない(同)」「昼間学校へ通えない青少年のために夜学校を開いたり……。郷土の人々に役立つ記事をのせたり…。苦しむ農民を見てだまっていることはできない(b社6年)」「先生の長い間の情熱と誠意と、それに応える

ヘレンの努力とが実って、ついに大学まで卒業することができた（a社6年）」「フェルナンドは、今でも大きなコルクの木の下にすわって、あいかわらず花のにおいをかいでいるということです。フェルナンドはとても幸せでした（a社2年）など、伝記やおはなしなどを通して、先生と子どもの交流、平和や幸せとは何かということとを再び訴えようとしている意図がうかがわれる。

しかし、A（健康や安全）の減少、さらに、B（感謝）、C（親切）、F（素直）、R（挨拶）などの人間関係を高める内容が減少しているということは、現実の問題として検討すべき余地を残しているといえるだろう。

#### IV まとめと今後の課題

以上、戦後の国語教科書について、全体的な特徴と各期ごとの特徴を生命尊重を中心に検討してきた。そして、これらの結果は、戦前の国定教科書と同様に、各時代社会の背景を如実に反映しながら、その内容を変えてきたことがわかった。各期ごとの特徴を要約すると、戦後の民主国家としての生活の立て直しを旨としたⅠ期（昭和22～26年）、知識の理解と同時に、経験主義を重視し生活や子どもの活動を中心としたⅡ期（昭和27～32年）、科学や技術の分野に対応すべき人間の育成に力が入られたⅢ期（昭和33～42年）、Ⅳ期（昭和43～51年）、そして、ゆとりと充実を掲げ、再び児童中心の情操面を強化しようとするⅤ期（昭和52～現在）と変化してきたといえる。

国語は、学校教育の中では重要な教材として、今も昔も変わらず大きな位置を占めている。その意味でも、最近の児童中心の色彩化、物語を主とした指導の傾向は、児童の興味をそそり、ある面で望ましい方向にあるといえる。しかし、そうであるがゆえに、そこでの内容には細心の注意が必要であることを、本研究では示唆しているように思う。すなわち、興味や動機づけのなされたところで、一体、何を、どう教えるのかということが重要なポイントとなるのである。

また、今ひとつ注目すべきは、教科書出版会社の変化であり、昭和30年代後半をピークに、出版社数も種類も減少してきた。現在では、検定制度がさらに強化され、出版社のもつ個性も失われ、学習指導要領に忠実に教科書は編集されている。そして、教科書を使用する側の選択もますます狭まり、与えられた教科書での教育にどう対処していくかが、重要な問題としてとらえられていく

であろう。

なお、今後は、戦後の検定教科書の理科、社会などの他教科との関連性を検討していく予定である。そして、人間尊重や生命尊重の教育を問い直していく中で、これらの教科書を使って、実際どう指導されているのかということも早急にすすめられるべき、われわれの課題である。

#### 謝 辞

本研究を進めていくにあたって、いろいろ御指導、御支援下さった児童・保育科の先生方に心より感謝を表しここに付記いたします。また、研究資料を集収し、協力下さった本学卒業生の田村陵子さん、小林敦子さんに深く感謝申し上げます。

#### 註

- 1) 日本書籍・昭和26年版、昭和35年版、昭和45年版、昭和53年版 各1学年から6学年 計62冊
- 2) 光村出版・昭和29年版、昭和35年版、昭和51年版、昭和59年版、各1学年から6学年 計62冊
- 3) 東京書籍・昭和28年版、昭和39年版、昭和47年版、昭和56年版、各1学年から6学年 計61冊

#### 引用文献

- 1) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子、浦部陽子：近代教科書の内容分析——生命尊重と達成動機を中心に、その1 国語について 東京家政大学研究紀要18(1), pp. 59～68 (1978)
- 2) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子：近代教科書の内容分析——生命尊重と達成動機を中心に（Ⅱ）その2 修身について、東京家政大学研究紀要19(1), pp. 31～40 (1979)
- 3) 今井啓子、橋口英俊、三角同、鮎川成子：近代教科書の内容分析——生命尊重と達成動機を中心に（Ⅲ）その3 理科について、東京家政大学研究紀要19(1), pp. 41～49 (1979)
- 4) 保延成子、三角同、橋口英俊：近代教科書の内容分析——生命尊重と達成動機を中心に（Ⅴ）その4 唱歌について 東京家政大学研究紀要24(1), pp. 101～102 (1984)
- 5) 橋口英俊、福田啓子、佐々木ひとみ：教私書と人格形成に関する基礎的研究（Ⅴ）戦後小学校検定理

- 科教科書の内容分析 第23回日本教育心理学会総会  
発表論文集 pp. 578~581 (1981)
- 6) 福田啓子, 橋口英俊: 教科書と人格形成に関する  
基礎的研究 (Ⅶ) 戦後小学校社会科教科書の内容分  
析——生命尊重を中心に, 第25回日本教育心理学会  
総会発表論文集 pp.238~239 (1983)
- 7) 福田啓子, 橋口英俊, 田村陸子: 教科書と人格形  
成に関する基礎的研究 (Ⅷ) 戦後小学校国語科教科  
書の内容分析——生命尊重を中心に 第26回日本教  
育心理学会総会発表論文集 pp.810~811 (1984)
- 8) 寺沢千高, 橋口英俊, 福田啓子, 篠原晶子: 教科  
書と人格形成に関する基礎的研究 (Ⅷ) 戦後小学校  
社会科教科書の内容分析——生命尊重を中心に 第  
26回日本教育心理学会発表論文集 pp.812~813  
(1984)
- 9) 海後宗臣, 仲新: 日本教科書大系近代編, 第9巻  
国語 (六) 講談社 (東京) 1979
- 10) 橋口英俊他: 前掲書1)
- 11) 文部省: まことさん, はなこさん 東京書籍 (東  
京), 1949
- 12) 文部省: いなかのいちにち 日本書籍 (東京),  
1949
- 13) 文部省: いさむさんのうち 日本書籍 (東京),  
1949
- 14) 出版労連教科書対策委員会: 教科書レポート83'  
No.27 出版労連 (東京), 1983 p50
- 15) 文部省: 昭和22年版学習指導要領
- 16) 文部省: 昭和27年版学習指導要領
- 17) 文部省: 昭和33年版学習指導要領
- 18) 文部省: 昭和43年版学習指導要領
- 19) 文部省: 昭和52年版学習指導要領
- 20) 文部省: 昭和43年版学習指導要領
- 21) 文部省: 昭和52年版学習指導要領
- 22) 文部省: 昭和52年版学習指導要領
- 23) 文部省: 昭和52年版学習指導要領
- 24) 本研究の一部は, 1985年, 第27回日本教育心理学  
会総会において発表した。